

## 第3回流山市子ども・子育て会議 会議録

### 日時

平成30年11月2日（金） 午前10時～11時30分

### 場所

流山市役所 第1庁舎 3階 庁議室

### 出席委員

柏女委員、吉川委員、手塚委員、堀江委員、田中委員、櫻庭委員、吉田委員

### 欠席委員

鈴木委員、松本委員、岡本委員、藪本委員、小沼委員、田邊委員（オブザーバーとして、幼児教育支援センター 小島室長が代理出席）

### 事務局

秋元子ども家庭部長、熊井子ども家庭課長、秋谷子ども政策室長、  
倉本子ども家庭課主任主事、  
「株式会社サーベイリサーチセンター」大木さん

### 傍聴者

2人

### 議題

- (1) 第2期子どもをみんなで育む計画の策定について
- (2) その他

### 資料

配布資料一覧

次 第：第3回流山市子ども・子育て会議次第

資料1：第2期子ども・子育て総合支援計画に関するニーズ調査項目について

資料2：(案) 流山市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査  
～就学前の子ども用～

資料3：(案) 流山市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査  
～小学生用～

資料4：(案) 流山市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査

～ヒアリング調査用～  
資料5：改訂版 スケジュール（案）

議事録（概要）

《事務局》

ただ今から、平成30年度第3回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

《会議成立の報告》

議事に入る前に会議の成立について申し上げます。附属機関の会議は、条例第5条第2項及び第3項の規定により、委員の半数以上の出席により、成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによるとされております。本日の会議につきましては、委員13名中7名の出席となっておりますので、本会議が成立していることを申し上げます。

なお、本日、オブザーバーとして、田邊委員が所属する教育委員会幼児教育支援センターの小島室長が出席しています。

また、先日、ニーズ調査の委託業者の入札を行い、落札した「株式会社サーベイリサーチセンター大木様」がニーズ調査実務者として、今後事務局側に同席します。

それでは、秋元子ども家庭部長より挨拶いたします。

《部長挨拶》

《事務局》

なお、ここで傍聴者の方にお入りいただきますので、宜しくお願いします

《傍聴者入室》

《事務局》

それでは、審議に入りますので、会長の柏女委員に議事進行をお願い致します。

《会長》

子育て世代の人口が増えれば、待機児童の問題だけでなく、すべてに影響がで  
てきます。それぞれの部署を強化していかなければいけないし、流山の実情を知  
らないでお見えになる方が結構いらっしゃると、子育て世代包括支援センター  
などにおける利用者支援のシステムを整備していかないと、サービスの使い方  
が分からないということもあるので、そういうことがないように、市民のニーズ  
をしっかり受け止めて子育てに活かしていければと考えております。

そのためには、今日議論するニーズ調査はとても大切な役割機能を果たすこ  
とになります。多くの方々のニーズの声を拾い上げていくということも大事で  
すが、少人数の声を拾い上げていくという、この二つを一緒に考えていかなけれ  
ばならないので、今日は質問書調査とインタビュー調査、ヒアリング調査の手法  
で拾い上げていきます。

ぜひ皆様方のご協力をお願いします。

それでは、ニーズ調査の件について事務局から説明をお願いします。

《事務局説明》

《会長》

それでは、資料1で前回頂いたご意見について修正の説明がありました。これ  
についてはよろしいですか

《委員》

はい

《会長》

御意見いただいた方、ありがとうございます。さて、それでは資料2、3に  
ついてのご意見を頂戴したいと思います。簡単に説明していただけますか。

《事務局説明》

《会長》

資料1と2については、流山市民の方がこれから使うサービスの量の見込と  
そのための確保の方策を考える基礎調査となります。

アウトカム評価の結果、流山市は子育てしやすい街になったかどうかを確認  
するための評価点になります。大きく3部構成で出されていることになります。  
何かご意見ありますか。まずは、就学前のお子様に関わっている方からご意見を  
いただければと思います。

《手塚委員》

個人の経験からですが、1点目は一人目の不安と二人目では困り事の種類が全く違います。アンケートの回答にも悩みました。

以前、ファミサポが使いづらかったです。フリーワードで取りにくいかもしれませんが、一人目や二人目などの項目があった方がよいと思います。

2点目は、ファミサポに対して、一般的には子育てが終わった人が預かるというイメージがあります。心理的なストレスを感じているのであれば、具体的にどんな形であれば預けやすいかなどを聞いてもいいのかなと思います。

《会長》

使いづらい場合の理由をどのようにしていくかですね。  
今の意見、どうですか。

《田中委員》

一時預かりに関しては、ファミサポだけではなくて、保育園や認可外保育園があると思いますが、流山には公的なものが、ファミサポと保育所しかありません。他の自治体をみると、例えば松戸であれば、子育て支援センターで4時間位は預かりますと言っています。

ファミサポで対応する事項なのではないでしょうか。  
自分の子どもを育てながら提供会員となる方が増えています。そういう方を取り込むために、小学校とか中学校にチラシを配ったりしているので、少し増えてはいます。

手塚委員が感じられた調査は、どうすればハードルが下がるのかを考えた方がいいのかもしれませんが。

《会長》

P14に一時預かりのことがあります。この書き方を少し工夫すればいいのかなと思います。

《手塚委員》

2人目を出産し、一人目を預けたいと思った時に、料金や質の問題とは別にファミサポは自分の選択肢にあがってきません。

事業自体を知らないなので、周知していかなければいけないと思います。

《会長》

事業の説明は入ってますか。

《事務局》

はい 入ってます。

《田中委員》

一番いいのはママスタイルです。ひとつチラシをいれると違ってくるのではないのでしょうか。

《堀江委員》

一時預かりを知らない方が、情報を得て利用するまでには、なかなか至りません。

《田中委員》

どちらかといえば、それは利用者支援の方の仕事なのかもしれません。

《手塚委員》

一時保育は保育士がいて施設が整っているので安心感があります。ファミサポはイメージが湧きません。

《会長》

こういった調査票と市民意識とのずれがあります。大事に扱っていかないと、この調査票自体が信頼できるものになっていきません。

《田中委員》

毎回、課題として出るのは、事業を知らないことです。別のアプローチが必要ではないのでしょうか。

《会長》

二人目の時については P2にある内容でクロス集計していけばみえてくるのではないのでしょうか。

《田中委員》

ファミサポは二人目の出産の時に利用するケースが多いです。一時保育を利用するにしても、そこまでの送迎は誰に頼むのかなど、そういう援助要請が増えています。

たとえば、ファミサポ利用会員にこの調査票を送れば、二人目以降のニーズ調

査に答えてくれる確率は高くなるのではないのでしょうか。

もしくは、該当する方に送る方法もあります。

《手塚委員》

一人目と二人目の時の違いは出した方がよいと思います。

《会長》

この調査では全員に聞くという調査なので、ヒアリング調査で二人目の方の一時預かりに決めて、聞いていくという方向はあるかもしれません。

他どうですか。

《吉田委員》

P14で一時間あたりの料金表があるとわかりやすいです。

《会長》

この問いは決まっているのですか。

《田中委員》

ファミサポは平日一時間700円からです。一時預かりは保育園によって違います。

《吉田委員》

平均でも良いのではないですか。目安がわかればよいと思います。

《会長》

この問いの中に一時間当たりの料金を( )書きで入れればよいのではないのでしょうか。

《櫻庭委員》

事業者側からすれば、料金を乗せるのはいかがなものでしょうか。ほとんどが人件費であり、今いただいている補助金ではやっていけない事業です。

《田中委員》

それを聞くことによって補助金が増えればよいと思います。

《堀江委員》

松戸市は一律500円となっているので、利用する側としては便利です。

《吉川委員》

採算が合わなければ一時保育も撤退せざるを得ません。

《櫻庭委員》

そうですね。補助金できちんと裏付けがなければ続けられないですね。

《手塚委員》

金額だけの議論になるのはどうでしょう。質が守られて預けられたらいいと思います。

平均値があるといいですね。

《田中委員》

自治体で違うので難しいです。

《会長》

事務局に確認です。保育所の利用希望が増えていますが、単純に転入者が増えているから利用希望者が増えていると考えればどうでしょう。

同じように一時預かりのキャパも増えていますか。

《子ども家庭部長》

施設は増えているので、そこで対応しています  
ただ、情報が全く伝わっていないので、使いたくても使えない人や使っていないのかどうかも分からない人がいるのは、大きな反省点です。

増えているかどうかに対しては増えていますが、足りているかどうかについてはこういうことをやっていきながら見ていくしかないのかなと思います。利用料については、利用者の直感で判断するので構わないと思います。逆に金額を掲示するとそれに引っ張られてしまうので、お客様として、どういう金額を想定しているのかどうかです。

前提として、オープンに出していかないと色んなことがわからないのではないのでしょうか。

《事務局》

振り返りますと、問25の2の設問に関しては、前回調査票を作る時に議論して独自で入れた設問でした。今回も同じように例を示した方がいいのか、自由に

した方がいいのか。

この設問は国の設問には入ってないのです。流山が入れた設問でした。入れた時に議論して、回答者の思いの部分を書いてもらったと思います

《会長》

その他いかがですか。

《櫻庭委員》

障害児に対しての設問がないのですか。

《会長》

3,000 人に無作為で配布するので、障害の量をつかむのは難しいです。

ヒアリングの中で個別の意見として把握していくのがいいのかなと思います。

《櫻庭委員》

ひとり親家庭や障害児を持つ家庭の方は声を出しづらいです。

《会長》

そこは前回も含めて大事にしてきているので、他の自治体ではやっていない大きな特徴だと思います。

他に学童の方の意見はありますか。

《田中委員》

夏休み子ども教室は追加しなくていいのですか。普段学童に入っていない児童はどうするのですか。

《会長》

そこはどうですか。

《事務局》

設問的には可能だと思います。どこにいれていくかだと思います。

《会長》

P7に放課後子ども教室を入れてもいいのではないですか。

放課後子ども教室の見出しを市としては作らない方針ですか。

利用希望をどこで聞いているのでしょうか。



《吉川委員》

5. 6年前に聞いた時には、市としては子ども教室ではなく、学童として対処していくということでした。

《小島室長》

平成29年の夏休みに子どもの居場所を作った時は、周知が不十分だったため募集定員に満たなかったですが、今年度は90人の募集に対して、110人の応募がありました。1年生から4年生までの募集でしたが、1・2年生のみ受け入れをしました。周知もされてきているので、平成31年度も継続していく可能性もあるかもしれません。

《会長》

放課後子ども教室も市としてやらないということでないのであれば、前からの意見で、本当に学童が必要な子どもたちが入所しているのかという意見が、子ども・子育て会議の中でありました。そうすると、学童に来ない子ども達の居場所がないので、学童に集中しているということも考えられます。

今後は夏休み子ども教室などの利用希望をとったらどうですか。このままだと、学童クラブに一極集中してしまいます。

そこは少し検討してもらえませんか。

《事務局》

はい

《手塚委員》

4月からコミュニティスクールを開いていますが、今年の夏に5,6年生が多く来ました。塾や学童以外に他にすることがないから行く所がないとのことです。

《会長》

感想ですが、子ども達が増えてきて、学童・保育に関わらず全部が混雑状態になって溢れてきています。地域の中に子ども達が居られるということが大事です。その子ども達を抱え込んでしまうのは良いことではないですけど、そういうことが流山のなかで起きてきているということが見えてきますね。この調査でどの程度、肌感覚が汲み取れるかどうかですね。

今日の意見は事務局で情報を取っていただいたり、これからの一時預かりの増え方や保育の増え方など調査の設定を進めて頂ければと思います。

それでは、ニーズ調査についてですが、説明をお願いします。

《事務局説明》

《会長》

ありがとうございました。

ヒアリングについての着眼点の話がありましたが、ご意見ありますか。

《手塚委員》

子育てしやすい街とは定義によります。点数を付ける時に同時に「子育てしやすい方にとってこういう状態」に対して何点です、具体的にしづらいのはこういう点です、とエピソードを教えてくださいと記すと答えやすいです。「理由」と聞くと答えにくいですが「こういうシーンがあった」というともう少し書きやすいのではないのでしょうか。

定義に対しての点数付けと具体的なエピソードがあるとよいと思います。

《会長》

とてもいい意見です。

問1のなかに入れてもいいかもしれませんね。

他どうでしょうか。

この件に関しては、部会で議論してもらおうということになっております。

それでは、ニーズ調査に関連して前回の会議の中で部会設置の話がでました。事務局と協議をしましたので、皆様にお伺いしたいと思います

部会では、「ニーズ調査項目の確認」「ヒアリング調査箇所・方法の確認」「子育てワークショップの実施及びその方法の「意見交換」について、を議題とします。

部会委員については、「吉川委員・櫻庭委員・岡本委員・手塚委員・藪本委員」の5名で構成するのはどうかと考えてますが、いかがでしょうか。

《委員了承》

《会長》

それでは宜しく申し上げます。

部会開催に伴い、事務局よりスケジュールの案内をお願いします。

《事務局説明》

《会長》

他にありますか。

《田中委員》

流山市総合計画審議会について、いいですか。

《会長》

議題の中に入れてもいいですか。

《事務局》

はい

《田中委員》

流山市総合計画審議会の中で、子どもを皆で育む街づくりの政策案が出ています。

《会長》

以上で会議を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

《閉会》

以上